

2008年7月28日

省エネ、省スペース設計の新型角形開放式冷却塔
「ヒシクーリングタワー M-Hiシリーズ」を発売

三菱樹脂株式会社

三菱樹脂株式会社（本社：東京都中央区 社長：吉田 宏）は、環境意識の高まる中、省エネ、省スペース設計という顧客ニーズに応えるべく、従来のユニット式角形開放式冷却塔「ヒシクーリングタワーRiシリーズ」をベースに、省スペース化と、当社従来製品との比較で最大約40%※の省エネルギー化を実現した新型モデル「ヒシクーリングタワーM-Hiシリーズ」を開発し、2008年7月30日から販売を開始します。

当社は、1962年に冷却塔「ヒシクーリングタワーシリーズ」を発売し、以来、角形開放式冷却塔をはじめとして、密閉式冷却塔、丸形開放式冷却塔など、ビルや工場などの設置場所の状況や必要とされるスペックに対応した様々な機種を幅広く展開しています。

冷却塔は、空調用冷凍機等で使用され温められた水を、冷却塔内部の充填材に滴下させ、ファン（送風機）で取り込んだ外気と接触させることで水温を下げる機能を果たします。通常、冷却塔内部の充填材は2段構成になっていますが、新製品では、これを3段に変更し、更に塔体設計を最適化することで水の冷却効率をより一層高め、従来当社製品との比較で最大約40%※の省エネルギー化（電力消費の削減）を実現しました。また、充填材を3段にすることで、冷却塔の幅方向の長さも短くし、省スペース化も同時に実現しています。その他、ユニット単位での現場搬入・設置が可能のため、工期短縮と工事コスト削減も図れます。

当社は、今後も、省エネルギー化などのお客様のご要望にお応えする冷却塔の開発及び供給に努めてまいります。

※当社の角形開放式冷却塔（冷却能力：325冷却トン）の送風機動力を比較した場合

従来製品：HT-325MQ-Riの場合 7.4 KW(3.7 KW×2台)

新製品：HT-325MQ-Hiの場合 4.4 KW(2.2 KW×2台)

【用語解説】

・冷却塔(クーリングタワー)

ビルや工場などの空調用の冷凍機で使用する水を冷却するための装置。冷凍機で使用され温められた水を内部の充填材に滴下させ、ファン(送風機)で取り込んだ外気と接触させて温度を下げます。冷却された冷却水は、再度冷凍機で使用されます。



【 写真 : 「ヒシクーリングタワー M-Hiシリーズ」 】

<本件に関する報道関係のお問合せ先>

三菱樹脂株式会社 総務部 広報室

TEL:03-3279-3800